

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和3年度 第39号
2022. 2. 18発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

- ◆◆ 2/4 に第3回学校関係者評価委員会を開催し、本年度の学校評価をまとめ上げていただきました。 ◆◆
…第38号、第39号と2回に分けて紹介させていただきます。

番号の後の文が、**学校の分析の中身を簡単に要約したものです。**

(3) 地域を愛し、地域から愛される学校



- ・全てのアンケート項目で数値の向上が認められ、一定の成果を上げられたと判断する。
 - ・コミュニティスクールについては、長柄スタイルの切り口が分かるような学習会・説明会を開催できた。保護者・地域の参加者は多くはないが、次年度のコミュニティスクール化につなげていきたい。その際、地域と学校がWIN-WINの関係になれるような切り口(説明の要点)を見つけ、説明していけたと考える。
 - ・学校安全や防災の観点での、洗い出しは、学校側だけの洗い出しであったが、一つ一つ改善に努めた。
 - ・「チーム長柄」の意識には明らかな向上が見られるので、引き続き向上できるように努力したい。
- ・数値が前回よりも向上している。これからも上がっていくのだろうと感じるが、保護者が本当の意味でどれだけ理解しているか、とりわけコミュニティスクールに関しての理解は、ぼんやりした物であることは否めないと思う。徐々に理解されていくのだろうと思うが、具体的なことが紹介されていくにつれて、分かってもらえていくのだと感じている。学校だより1枚ごとにコミュニティスクールの取り組みが1箇所でも、関連の記事が紹介されていくと理解が進むように感じる。
- ・私も、事柄に触れる機会や事例や紹介記事が沢山積み上がると、知った気持ちになっていくと思う。
- コミュニティスクールについても具体的な紹介内容が出てくれば、積極的に取り上げていきたい。まだ形式的で完全に踏み込めていないなどは感じる。しかし、中学校長と月2回程度の打ち合わせを行っていったら、すごいことだと感じている。そこでは何か具体が生まれ、伝えなければならないことが出てくると思う。例えば学校便りで最近伝えている安全に関する話題は、地域の方と共有が必須の話題だと思っている。来年度からはもっと地域と連携していきたいと思っている。
- ・地域との関わりについて、子どもを持つ親は地域とどう関わっていくのか知りたい。若い世代の人と地域が離れているように感じる。また、保護者と学校は一体感があるように感じたが、地域と学校がどう関係を作っていくのか興味深い。どうやったら耳を傾けてくれるのか見つけていければ良いと思う。→子どもを抱える世代が地域から離れているのですからね。→見守りをしていて、子どもたちやその親御さんたちとふれあえるのは嬉しく感じている。→親として、すごい安心感につながっています。安心して送り出せているので感謝しています。→見守りの価値を学校も認めています。

(4) いじめ防止に向けた対策

- ・「いじめの芽はいつでもどこにでもある」と捉え、アンテナをしっかりと張り、苦しんでいる子の声をきちんとキャッチし、適切に支援できるよう努めることができた。
 - ・SC、SSWとの連絡会等を活用し、引き続き、教育相談委員会で適切な状況把握に努めることができた。
 - ・引き続き最重要目標ととらえ、重大ないじめ事案を起こさないよう努めたい。特に、いじめの「早期発見・早期対応」については200名近くの保護者の方が、「分からないF」を選んでいることや、40～50名ほどの児童・保護者は、本校のいじめ対応にC・Dという批判的な思いを持っていることを肝に銘じて、いじめ問題にあたっていきたい。
- ・教職員アンケートの数値の向上は安心感につながる。悪質ないじめの話など実際に聞こえてこないのに、どうしても「分からない:F」を選んでしまう。いじめの事例に限らず、不登校気味になった児童が通える教室があると良いと思う。不登校気味になるとクラスに入るハードルが上がってしまい入りづらいと思う。そんな時に受け皿となるような教室があると保護者にとっても児童にとってもありがたいと思う。それにより戻りやすさにつながると考える。不登校が原因でいじめにつながるケースもあるであろうからおそろそう思う。
- ・上山口小の「やしの実教室」を見たが、やはり自分の学校に行きたいと思うだろう。「ハートのポケット」は、中学校にはある。
- ・「やしの実教室」は、その手続きを含めてやや重い感じがする。学校の努力が必要だが「ハートのポケット」の方が通いやすいのは事実だろう。
- ・保健室対応を思い出す。保健室・図書室の先生などと、会ってもらえるだけで頑張れるかも知れないと感じる。居場所があると良いと思う。



長柄小学校学校だより

- ・子どもがなじめなかった頃を思い出すと、そんな対応があったら良かったと思う。ちょっとした変化があると良いと思う。子どもが不登校になって何が一番不安かといえば、その児童に社会性が育たなくなることだと思う。
- ・児童が子どもや先生と合わなくなって困っているとしたら、クラス替えを途中でも行うとか、所属するクラスを変えてあげるといったアイデアなど自由な発想が取り入れられると良いなど思う。
- ・中学校の「ハートのポケット」は町の事業から始まった。でも現在は、開いている部屋を活用し、学校の努力のもとで、学校職員が指導につく形がほとんどになっている。関われる空き時間の教員がいるかどうかは鍵となっているので、手が足りなくなっているのが現状である。担任制の小学校ではその実現化はやや難しいかも知れない。
- ・場所を作るよりも、対応して下さる人を生み出すことが、困った子の居場所づくりにつながると思う。
- ・居場所が困った子どもたちにあるのが良いなど私も思う。
- ・いじめのことにに関しては、児童が、度が過ぎる行為や行動を、悪意無く取ってしまう場面があるはずと感じている。そんな時に、聞く耳を持って（決めつけでなく）指導にあたって下さる、先生と児童の関係性をつくってほしい。そして子どもたちを見守って頂ければ良いと思う。

◆◆ 2月3日（木）に2学年でモンゴル講座を実施しました。 ◆◆



感染対策のため1クラスずつ計3回のご講演を頂きました。奏者である さんのご講演の素晴らしさには毎回心を打たれています。3回の実施は大変なことと思いますが、それでもやりきってくださいました。児童は、宮原さんからモンゴル語での挨拶を教わったり、モンゴルでの暮らしの様子を教えていただいたり、馬頭琴の音色を満喫させていただいたりしました。「スーホの白い馬」を理解する上で、感性を沢山刺激されたことに違いありません。 さん今年もありがとうございました。

◆◆ コロナ感染を防ぐ工夫のもと、児童会運営委員選挙が終わり、新しいメンバーが決まりました。 ◆◆

1月28日に運営委員選挙がありました。コロナ関係でお休みだった児童の投票を待って、運営委員が選ばれました。同票で複数の児童が当選したようで、4年生から7人、5年生から5人、計12人の運営委員が選ばれました。落選した人を含め皆さん頑張って貴重な体験をしました。

4年生

5年生

この12人がこれから長柄小学校を引っ張っていきます。一年間よろしくお祈いします。

◇◇ コロナウイルス対策にて学校携帯での電話対応で経験したこと ◇◇

学校運営の適切な判断のため学校電話が留守電になってしまう時間に、電話を承っています。ある時、電話越しで、陽性の報告をしてくださっているお母様の声から、泣いていらっしやるのが分かりました。陽性になってしまうこと、コロナウイルスに感染してしまうことは決して悪いことでも何でもないのに、申し訳なさそうに泣いていられました。この時、改めて「誰が感染したんだと犯人捜し」のような行為が行われてはダメだと強く感じました。感染するだけで、自宅謹慎となりご家族の経済活動すら奪われるのに、さらに追い打ちをかけるような行為があってはいけないのです。今は感染していなくても、お互い、いつ、その立場になるかもしれません。そんな時にお互いが支え合えるような「自分も人も大切に」しあえる長柄小学校であってほしいと願います。